

ひと・夢・まち 町長コラム

「南洲翁遺訓」について（令和元年5月号） （西郷どんの教え vol.0ゼロ）

昨年の6月から連載していました「西郷隆盛・十の訓え」が先月で終了しましたが、今月からは西郷一族と縁のある町として、もう少し「西郷隆盛」について学んでいきたいと思います。「西郷隆盛・十の訓え」の著者であり、一昨年来町された隆盛の曾孫である西郷隆文氏が、「南洲翁遺訓」についてわかりやすく青少年向けに書かれた「西郷どんの教え」という書を紹介していきます。

遺訓とは故人の残した教えのことですが、「南洲翁遺訓」は明治23年に発行されました。ただ、西郷さんの遺訓なのに、作った人は薩摩藩（鹿児島県）の人ではなく、庄内藩（山形県・鶴岡市）の人なのです。これには明治維新終焉の時に起こった「戊辰の役」での出来事が大きく関わっています。新政府軍と戦っていた庄藩は敗れ、厳しい罰があると覚悟していましたが、寛大な処置が下されます。このような「王道的な処置」に感銘を受けた庄内藩の人たちは、8年後に、指示を出した西郷隆盛を訪ね直接話を聞いたそうです。その時話したことを後にまとめたものが「南洲翁遺訓」です。

この書は、西郷さんを理解する上でも役立ちますが、皆さんのこれからの人生の中において、全てがその通りなどと思うことはないにしても、一つでも役に立つ言葉があれば幸いと思っています。47もの教えがありますので、これからの4年間、一緒にお付き合いください。